

情報連絡員・関係機関 各 位

高知県中小企業団体中央会
(公印省略)

情報連絡員報告総括表（令和8年4月次）の送付について

標記総括表を取りまとめましたので、ご参考までに送付いたします。

令和8年4月次情報連絡員報告のまとめ

※DIとは、「好転」と回答した企業の割合 - 「悪化」と回答した企業の割合。

DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

《調査対象：製造業 15 組合等、非製造業 19 組合等 計 34 組合等 回答率：100.0%》

【製造業】では、「売上高」(DI 値▲6.7)は 20.0 ポイント、「収益状況」(DI 値▲33.3)は 6.6 ポイント前月より悪化した。「販売価格」(DI 値 20.0)・「取引条件」(DI 値 0.0)・「資金繰り」(DI 値▲6.7)・「業界の景況」(DI 値▲26.7)は前月と同水準となった。「雇用人員」(DI 値▲6.7)は 6.6 ポイント、「在庫数量」(DI 値 6.7)・「設備操業度」(DI 値▲13.3)は 6.7 ポイント前月より改善した。

【非製造業】では、「販売価格」(DI 値 21.1)は 10.5 ポイント前月より悪化した。「取引条件」(DI 値▲15.8)・「資金繰り」(DI 値▲15.8)は前月と同水準となった。「業界の景況」(DI 値▲47.4)は 5.2 ポイント、「収益状況」(DI 値 36.8)・「雇用人員」(DI 値▲26.3)は 5.3 ポイント、「在庫数量」(DI 値▲20.0)は 10.0 ポイント、「売上高」(DI 値▲10.5)は 36.9 ポイント前月より改善した。

【全体】では、「販売価格」(DI 値 20.6)は 5.9 ポイント前月より悪化した。「取引条件」(DI 値▲8.8)・「資金繰り」(DI 値▲11.8)は前月と同水準となった。「雇用人員」(DI 値▲17.6)は 5.9 ポイント、「設備操業度」(DI 値▲13.3)は 6.7 ポイント、「在庫数量」(DI 値▲4.0)は 8.0 ポイント前月より改善した。

なお、主要指標については、「収益状況」(DI 値▲35.3)は前月と同水準、「業界の景況」(DI 値▲38.2)は 3.0 ポイント、「売上高」(DI 値▲8.8)は 11.8 ポイント前月より改善した。

県内各業界別の動向

<令和8年4月>

高知県中小企業団体中央会

1. 情報連絡員報告総括表

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況					
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化			
食料品	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1
繊維工業	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
木材・木製品	0	2	1	0	3	0	0	2	1	0	3	0	0	2	1	0	2	1	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	2	1
紙・紙加工品	1	1	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	2	0
印刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
化学ゴム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
窯業・土石製品	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	1	1
鉄鋼・金属工業	0	1	1	0	2	0	1	1	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0
一般機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸送用機器	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
製造業その他	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
小計	2	10	3	1	14	0	4	10	1	1	13	1	0	10	5	0	14	1	0	13	2	1	12	2	0	11	4			
卸売業	0	2	1	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0							0	3	0	0	2	1
小売業	0	2	2	0	2	2	0	3	1	0	3	1	0	2	2	0	3	1							0	1	3	0	1	3
商店街	0	3	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	1	2	0	3	0							0	3	0	0	1	2
サービス業	2	2	1				2	3	0	0	4	1	0	3	2	0	3	2							0	5	0	0	3	2
建設業	1	1	0				1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0							0	2	0	0	2	0
運輸業	0	1	1				0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	2	0							0	0	2	0	1	1
その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	0	0	0	0	0
小計	3	11	5	0	8	2	5	13	1	0	16	3	0	12	7	0	16	3							0	14	5	0	10	9
合計	5	21	8	1	22	2	9	23	2	1	29	4	0	22	12	0	30	4	0	13	2	1	26	7	0	21	13			

2. 景気動向指数（売上高、収益の状況、業界の景況）

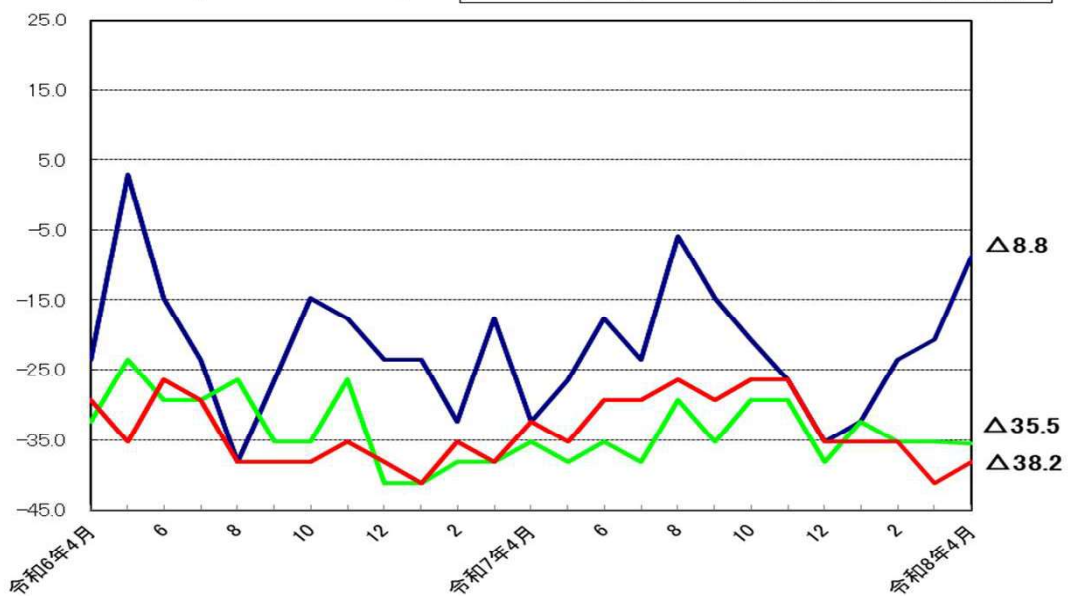
【3月分集計】

	売上高	収益の状況	業界の景況
製造業	13.3 増加：5 / 15 不変：7 / 15 減少：3 / 15	▲ 26.7 好転：0 / 15 不変：11 / 15 悪化：4 / 15	▲ 26.7 好転：0 / 15 不変：11 / 15 悪化：4 / 15
非製造業	▲ 47.4 増加：1 / 19 不変：8 / 19 減少：10 / 19	▲ 42.1 好転：0 / 19 不変：11 / 19 悪化：8 / 19	▲ 52.6 好転：0 / 19 不変：9 / 19 悪化：10 / 19
全体	▲ 20.6 増加：6 / 34 不変：15 / 34 減少：13 / 34	▲ 35.3 好転：0 / 34 不変：22 / 34 悪化：12 / 34	▲ 41.2 好転：0 / 34 不変：20 / 34 悪化：14 / 34

【4月分集計】

	売上高	収益の状況	業界の景況
製造業	▲ 6.7 増加：2 / 15 不変：10 / 15 減少：3 / 15	▲ 33.3 好転：0 / 15 不変：10 / 15 悪化：5 / 15	▲ 26.7 好転：0 / 15 不変：11 / 15 悪化：4 / 15
非製造業	▲ 10.5 増加：3 / 19 不変：11 / 19 減少：5 / 19	▲ 36.8 好転：0 / 19 不変：12 / 19 悪化：7 / 19	▲ 47.4 好転：0 / 19 不変：10 / 19 悪化：9 / 19
全体	▲ 8.8 増加：5 / 34 不変：21 / 34 減少：8 / 34	▲ 35.3 好転：0 / 34 不変：22 / 34 悪化：12 / 34	▲ 38.2 好転：0 / 34 不変：21 / 34 悪化：13 / 34

情報連絡員報告 (令和8年4月)



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での課題点)	
製 造 業	食料品	食料品製造業 (団地)	中東情勢に起因する消費者マインドの冷え込みなどにより、売上、収益とも減少傾向にある。さらに夏場に向け、エネルギーや包装、資材等の素材コストの高騰が見込まれることから、内部経費の節減や食品価格への転嫁などの対策に迫られている。今後も引き続き注視が必要。
		酒類製造業	米価にやや下落傾向が見え始めており、製造コスト面では明るい材料となっているが、主食用米の高騰によって酒米生産者が減少しており、原料米の安定確保に向けては難しい局面が続いている。販売面では、値上げの影響などにより、低価格帯のレギュラー商品を中心に厳しい状況が続いている。その中で、輸出は引き続き堅調に推移している。
	繊維工業	帆布製品製造業	原材料の高騰を販売価格への転嫁が出来つつあると思われるなか、本年2月1日より製品の値上げがあり (商品によるが0.05%~0.25%)、またまた厳しい状況である。この様な状況のなか、付属品 (ローブ類、ハトメ、ミン糸) の値上げ、また中東情勢により原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境の悪化の影響で、全製品の大幅な価格改定 (5/1~6/1より) があると思われる。販売価格への転換に厳しい状況が続くと思われる。
		木製品素材生産業	4月期の原木出材量は、先月と変わりなく天候にも恵まれ順調に入荷している。丸太価格については、一部の樹種 (ヒノキ3m柱適材) が依然として値下がりしてきている状況ではあるが、全体的にほぼ横ばい状況。5月に入り、原木出材量は好天が続けば大きな影響はない。また、丸太価格については製品の動きが相変わらず鈍いため、一部 (ヒノキ3m) で値下がりが続いており、先行きは見通せない状況。
	木材・木製品	一般製材業	石油系資材・製品の供給不足が景況感を更に悪化させるとの声が多い。
		建具製造業	仕入価格の高騰により、商品の値上げをせざるを得ない状況である。
		紙・紙加工品	紙製品全体としては、販売金額は前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量は下回った。また、品目別では、雑種紙が販売金額及び生産量ともに前年同月比で上回ったのに対し、衛生用紙は販売金額が前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量ともに下回った。なお、緊迫する米・イラン情勢を受けた原油高騰は、紙製品のコスト増を招き、企業の収益を著しく圧迫する懸念が出ている。
	紙・紙加工品	手すき和紙製造業	今月より、新年度のスタート。人の動きはあるものの、物価の高騰が収まらない状態で厳しい。中東の問題もなかなか緊張感が高まり、今後の影響が見通せない状況。
		印刷	印刷業
	窯業・土石製品	生コンクリート製造業	4月度の組合員工場の出荷量は対前年比74.2%であった。地域的には嶺北、中央地区は対前年比95%前後であったが、他の地区は40~70%前後で減少している。年度明けの公共工事の減少が要因と考えられる。
		コンクリート製品	対前年同月比118.5% 今後も昨年度と同様に推移すると考えている。
	鉄鋼・金属	刃物・金物類製造業	新年度になり少し低調。今後の中東情勢による諸経費の高騰により、商品の価格改定もあるかもしれない。注視しなければならない。
金属製品製造業 (団地)		団地内の業況に特に変化はなく、横ばいの状況が続いている。令和7年度の団地内の売上高総計は、前年に比べて4%ほど増加しているが、昨今の原材料費やエネルギー価格の高騰、円安や賃上げの進展などが影響し、売上の伸びほどに収益状況は改善していないことが想定される。	
輸送機器	船舶製造・修理業	製品を出荷する際に必要な作動油類の入手が難しくなり、先行きが不透明。機械加工用のオイルや梱包用のフィルム類の入手も難しくなっている。	
その他の製造業	装飾品・同関連品製造業	4月度の取引額は前年同月比で163%。コロナ禍前 (令和元年4月) と比べても123%と、回復傾向にある。	
卸売業	各種商品卸売業 (団地)	中東情勢の影響により、資材、包材等の暫定的な大幅な値上げが行われており、弁当等のテイクアウトの店への影響は大きく、更なる価格転嫁を余儀なくされている状況。仕入商品の高騰や品切れの不安あり。販売価格に転嫁できにくい為、収益圧迫の懸念あり。	
	青果卸売業	4月の取扱高は組合員全体で前年対比99%となった。3月に比べ、4月の取扱高は上昇したが、まだまだ好転したとは言いきれない状況。今年1月から4月までの累計は94.6%となった。	
	生鮮魚介卸売業	前年比20%ダウンで大変である。原油問題で漁船の燃料が確保できているか心配している。カツオは小さいが美味しくなっている。	
小売業	各種商品小売業 (四万十町)	4月の町内の景気動向は、ホルムズ海峡関連で商品価格と仕入に影響が出始めており、品薄になっている商品がちらほら見受けられる。収入は各事業所横ばいもしくは減少といった状況。先行きを不安がっている事業者は多い。仕入れ値の上昇を販売価格に転嫁しきれていない事業者もあり、売り値を上げて品物が入ってこなければどうしようもないこともあって、先行きを不安がっている事業者は多い。	
	電気機器器具小売業	4月度は全商品平均金額で前年比96%。白物家電金額で前年比95%、4K8Kテレビ前年比83%、省エネタイプエアコン前年比98%、リフォーム関連前年比94%であった。	
	中古自動車小売業	一部車種を除き相場も安定しており、流通量は少ないものの仕入れが効率的に行えている。高年式車両にも関わらず、幅広い年式車両が売れている。	
	ガソリンスタンド	3月31日の軽油税の暫定税率廃止に伴い、軽油特に免税軽油の大幅な値上げにより土木・農林漁業には大きな痛手となった。原油価格は一時的に下がりはじめていたが、中東の問題は解決せず再び上昇している。政府も再び補助金を出し、備蓄放出を行い市況を安定させようとしているが、A重油の品薄は続いている。4月末時点の政府の補助金額は39.7円にもなっており、国の財政が心配である。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非 製 造 業	安芸市	今年で3回目となるお花見会を実施。約90名の参加があった。商店街で料理を仕入れ、楽しく交流ができてみなさんに喜ばれた。	
	高知市	4月の駐車場利用台数は、前年同月比105.9%となり、前年同月より1,419台増加した。あわせて、料金収入についても前年同月比112.8%となり、前年同月より1,059万円の増収となった。また、人流カメラによる集計では、4月の来街者数は前年同月比3.5%増となった。特に、4月11日(土)・12日(日)に開催された「高知アネクリ祭2026」は多くの来街者を集め、商店街の人流増加に大きく寄与したイベントとなった。さらに、4月はクルーズ船の寄港が18隻あり、昼間時間帯の中心市街地への回遊を後押ししたものと考えられる。	
	四万十市	前年は、2店閉店があったが、新たに3店開店し、商店街全体の低下を防ぐことができていた。全体としては、小売業から飲食店への増加が多くなっている。売上高は伸びているが、利益が伸びていないという店が数軒あった。	
	サービス業	旅館・ホテル	宿泊客数は今月も昨年並み。新規チェーンホテルの影響を懸念する。
		飲食店	集客は前年同月を下回る、販売価格は上昇しているため売上高は前年同月と同程度だが、物価高に価格転嫁が追いついておらず、収益は悪化している。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、すべての経費が上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
		旅行業	組合クーポン前年同月対比 102%、全旅クーポン合算後 前年同月対比107%。春の旅行シーズンで前年を上回る数字であるが、将来の見通しは決して楽観出来ないと感じる。
		情報サービス業	今月の売上は前年を上回る結果となった。年度末需要の高まりが見られ、大型案件の受注が相次いだ。特にシステム構築の案件に増加傾向があった。年度末を過ぎると受注が落ち着く傾向が例年見られるため、一過性の動きにならぬよう提案活動の強化に邁進していきたい。
		普通洗濯業	中東情勢の影響を受けて、灯油、重油などの燃料費やハンガー、包装用ビニールなど資材価格が5割以上の上昇。加えて、包装用ビニールは3月より出荷制限で手に入らない。洗剤を運ぶための18ℓポリ容器も品薄との情報。石油系溶剤も6月より5割値上げ。石油系溶剤は消防法で貯蔵が出来ず、これからの供給に不安の声が上がっている。4月以降クリーニング料金改定の動きが本格化しているが、アップ額は限定的で、度々の改定は難しい。
	建設業	一般土木建築工事業	土木建設業界の景気が良くなっている印象は薄いですが、企業努力により入職者が増えている会社もある。
		電気工事業	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比137%となった。香長・安芸・室戸地区の工事が多く、全体を引き上げた。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	中東情勢の解決の兆しが見えない中、燃料価格は政府補助金である程度抑えられているが、今後は更なる高騰が懸念され一部では供給制限も出ている。石油関連品、輸送資材も不足、高騰してきており組合員企業の経営は非常に厳しい状態といえる。
		一般乗用旅客自動車運送業	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入：99.2%、回数：96.9%、実働率：49.8%。令和8年3月6日に高知市の事業者1社から運賃改定の要請書が出された(四国運輸局)が、3か月後の6月5日までに県下のタクシー車両数の50%(500台)に当たる事業者から要請書が提出されないと改定にならない規則がある。4月末現在不足している。改定を望んでいる事業者は、改定されなければ運営は苦しくなるばかりと悩んでいる。今回から改定されると県下同一の運賃料金となる。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
輸送機器	船舶製造・修理業	このまま原油やLNGなどの輸入停止が長期化した場合、物価上昇に加え、製造業(特に中小企業)へのエネルギー供給が大幅に制限されることを懸念している。地域経済を支える中小企業の事業継続に重大な影響が生じないよう、関係省庁への働きかけをお願いしたい。
卸売業	各種商品卸売業(団地)	消費税は現状のままでもいいが、インボイス制は事務負担が大きい為、廃止するよう働きかけてほしい。
サービス業	情報サービス業	補助金などの最新情報があれば教えて頂きたい。
	飲食店	業界の売上はコロナ禍以前との比較で8~9割と厳しい。原材料や光熱費の高騰は収益を圧迫、更にコロナ時の特別貸し付けの返済も始まり、経営が厳しい事業者も多い。そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。経営状態の改善は急務、補助や助成等事業改善のサポートが必要。イラン有事の影響により、電気、ガス代の値上げが続いている。飲食店用の資材や包材も4月~5月中に30%以上の値上げが確定していて、円安による食材費の高騰と相まって、飲食店の利益が更に圧迫される。需要の減退を招くような値上げは出来ず、飲食店の自助努力は限界に近くっており、多くの事業所が事業継続困難になる事が予想される。関係業種の連鎖的な廃業等、地域経済や雇用状況にダメージを及ぼす恐れもあり、現状の極めて厳しい経営環境を緩和する補助や助成が必要。
	普通洗濯業	中央会として早速県に陳情いただいたことに感謝する。ただ資材は一部でも無くなれば仕事は完成出来ないため、安定供給をお願いしたい。